

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 履修指導を組織的に実施するための「履修指導マニュアル」を学科毎に作成する。	→履修指導マニュアルの作成、およびその改訂状況。	C	B	B	B	B
2. 成績不振学生の履修指導方法を体系化する。	→履修指導を行った学生(保証人に連絡を行った学生を含む)の比率	C	B	B	B	B
3. 成績評価基準がシラバスに明記されるよう徹底する。	→シラバスへの成績評価方法記載率。	A	A	A	A	A
4. 学部独自のFD研修会を実施する。	→開催状況。	A	A	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 成績不振学生の履修指導を学科ごとに体系的に行うために、学部カリキュラムWGで各学科の「履修指導マニュアル」を作成することを確認した。2010年度には5学科で履修指導マニュアルを作成した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 履修指導マニュアルにより、早期の段階から留年の危険性について学生に説明することができるようになり、履修指導が的確に行えるようになった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年には3学科が新設され、理工学部全体で授業カリキュラムが大きく変更される。理工学部全体で再度、履修指導マニュアルの作成・改訂を行う。	☆
		その他	☆
			☆
目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各学生を担当する教員を定める「担任制度」を実施し、成績発表日を中心に履修指導を行っている。履修指導を受けた学生数は正確に把握できていないが、おおむね8割程度である。さらに、成績不振学生に対しては保護者に連絡するようにしている。2010年度からは当学期GPAを基準にして成績不振の判断を行うようにした。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 成績不振学生に関しては保護者からの個別相談も依頼されるようになり、その効果が上がっている。一方、成績発表がインターネットでも行われるようになり、履修指導を受けない学生数も少なくない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 履修指導を受けた学生数の把握を正確に行い、成績発表日に履修ガイダンス等も行うことにより、履修指導の徹底を図りたい。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度のシラバス入力システムの改修により、必須事項の記載のないシラバスは受理されなくなった。これにより、成績評価基準がシラバスに明記されることが徹底された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも成績評価基準のシラバスへの明記を継続する。	☆
		その他	☆
			☆
目標4	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 理工学部FD委員会で定期的に理工学部でのFDの取り組みについて検討するとともに、学部独自のFD講演会を毎年開催している。テーマは全教員を対象に行なった「FD意識調査」の結果に基づき、教員の関心の高いものを選定した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 定期的にFD講演会が開催されるようになり、教員のFDに関する意識が向上した。一方で、講演会への参加者数はそれほど多くない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か FD講演会への参加者が増加するように、テーマ、日時、周知方法を改善する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆